

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

「役者や監督を泣かせたら降りる!!」
この一言で撮影は始まった
赤影参上! 中野裕之—安藤政信で撮影開始!!



「赤影」とは?

20代前半までの男性と女性達には少々説明が必要かもしれない。「鉄人28号」「バビルⅡ世」「ジャイアント・ロボ」で有名な少年マンガの大家・横山光輝が原作の「仮面の忍者 赤影」は連続テレビ時代劇で、'67年4月5日より'68年3月27日まで、関西テレビが全52話を放送。戦国時代を舞台に、飛騨の忍者・赤影(坂口祐三郎)、青影(金子吉延)、白影(牧冬吉)ら3人の活躍を特撮とアクションで描いた痛快娯楽番組。赤影は仮面の忍者で、通常は赤い仮面を被っている。今回のキャスティングは、前述のとおり主役の赤影に安藤政信、青影にはUAのご主人、ムラジュンこと村上淳、白影に変わって影一族三人衆として登場する女忍者、飛鳥を麻生久美子が演じる

往年の人気時代劇番組「赤影」が、21世紀に装いも新たに最新SF×十アクション満載の劇場大作として復活する。東映京都撮影所にて3月より撮影が開始されている。

監督は吹越満、布袋寅泰、風間杜夫、藤井フミヤ出演の「SF・サムライフィクション」を手掛け、GLAYなどミュージックビデオの巨匠でもある中野裕之。今回、オファーを引き受けるに際して中野監督は、ある条件を出した。一つは主役を安藤政信にする事。中野監督は北野武監督の「キッズ・リターン」に出演した安藤政信を見て以来、すっかり大ファンとなったそう。そしてもう一つは京都の撮影所気質についてである。「京都撮影所気質」とはつまり、「厳しくて怖い」「監督や俳優が泣かされる」など、広く流布されているイメージで、中野監督は「もし俳優を怒鳴ったり、泣かしたりする事があれば、僕はすぐに仕事を降ります」と宣言したのだ。

撮影所は穏やかではなく一幕もあつたが、そこは職人集団の京都映画人。そんな心配も技術で吹き飛ばそうとする気満々。撮影がスタートしてみれば一時の緊張も笑い話となる程の、和気あいあいとした楽しい現場となった。

出演は「サムライフィクション」でお馴染みの中野組の面々と安藤政信、麻生久美子、村上淳、竹中直人、津川雅彦、奥菜恵、根津甚八、篠原涼子、椎名桔平、谷啓、中田大輔、陣内孝則といった人気若手とベテランの面々に、舞の海、そしてあのロシアの新体操の女王で「こんなんどお?」のCMで日本でも人気のアリーナ・カバエヴァまでもが出演するというから驚きだ。

撮影は京都を中心に、熊本ロケを挟んで5月中旬まで行われ、公開は今夏を予定している。現在30代半ばの男性諸兄には当然涙モノ、監督やキャストینگは映画好きにも、音楽シーンに興味のある人にも、大期待の一作だ。

十手片手に 奴が走ると 事件の方から駆けて来る!

「十手人」テレビ朝日系好評放映中!

高嶋政伸と渡瀬恒彦が顔を合わせる「十手人」(木曜夜7時・テレビ朝日系放映)は、久々の正統派捕り物帳時代劇。源七(高嶋政伸)は入れ墨者の岡っ引き。父親の死をきっかけに同心・佐々木弦一郎(渡瀬恒彦)と出会い、「十手人」となって弦一郎と共に難事件に立ち向かう。その他の出演は酒井美紀、柳沢慎吾、加賀まりこ。「世の中万事九分が十分。人間が人間を治めるのに満足なんてありゃしねえんだ」という弦一郎のポリシーは今の世相、心に染みるだろう。



スクriptターから監督デビュー 竹内美年子さん

映像を志す女性にとって、監督の椅子は果てしなく遠い。映像を志す女性はもっぱらスクriptターの道を選択するのだが、一人の女性がスクriptターから監督デビューを果たすという快挙を成し遂げた。所は松竹京都映画撮影所。スクriptターとは監督の秘書的な役割で、撮影した場面ごとの時間やつながりを記録する係。男社会の映画界において唯一の女性が主役の職である。竹内さんも学生時代から自主映画を製作し、映画製作を志すものの、演出への道は険しく、スクriptターの道を選んで業界入りした。

その竹内さんが監督をする事になったのは、カメラマンでプロデューサーも兼ねる江原祥二氏の「やる？」という一言に「うん、ええで」と返事をした事が始まり。

ビデオソフト・メーカー「ENGEL」が製作した「くノ一忍法伝」の続編の企画を募り、江原氏に依頼。そして多数提出された企画の中から竹内さんの企画が認められ、脚本・演出を担当する事となり、スクriptターから監督デビューという快挙となったのである。

撮影中はギリギリのスケジュールをこなすのに必死で「とにかくケガがないように」気を配ったとかで、最大の悩みは「限られた時間と予算の中で、どこで自分を納得させOKを出すか」という、自分自身との闘いだったという。「くノ一忍法伝2」（仮題・出演・後藤麻衣、川村愛子、望月美穂、本宮泰風）は6月末のリリースを目指して現在、仕上げ作業の真っ最中。完成作品の紹介は次号。完成が楽しみな注目的一作だ。



スクriptターから監督デビューした竹内美年子さん

パート1の「くノ一忍法伝」には織田無道も出演。全国レンタル店で好評レンタル中



演出中の竹内さん。ハードスケジュールで現に角キネストやスタッフの無事を願ったとか。

社連の表へ分かれ、斬る者刃 閃光走る

今月の言葉

近頃は企画書と小説に追われる日々。この号が発売の頃には小説も執筆完了、掲載誌の発売を1カ月後に控えている予定。角川書店刊

「怪」6月発売号に掲載なので興味のある方は「一読下さい。」

2001年5月1日
山田誠二

責任編集人 山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論など多岐にわたる作家。映画関連著作多数執筆。



出演は中条さよしの他、青田典子、ご存じ市田ひろみ、笑福亭松之助ら

「ドラマで許せない悪を必殺みに殺せないのはストレスが溜まる。このシーンがあるおかげで僕も発散出来る。ドラマを見る人も最初はどの事か分からないかもしれないが、見終わった後はスッキリするはず。視聴者の方の中には、小暮が勇次の生まれ変わりに見える人もいるかも知れない」とはご本人のコメント

「必殺仕事人」で女性ファンのハートを魅了した中条さよしの三味線屋勇次が復活する。現代の京都を舞台に、現代版仕事人が活躍する本作品で、三味線の糸を使った必殺シーンが再現されるのだ。現代劇では許されない現代的制裁の必殺を、イメージとしてドラマに挿入するという製作陣のアイデア。かつて朝日放送では、許せぬ悪を殺さず、社会的に制裁する現代劇「ハンガマン」シリーズを放映していたが、この「現代版仕事人」は「仕事人」と「ハンガマン」をドッキングさせた内容。京都でカラオケ教室を経営する小暮伸一（中条）が、庵住（小島絹子）の依頼で、京都に集く悪を懲らしめるというストーリー。辰野プロデューサーは「仕事人では悪を殺したが、今回は現代劇なのでハンガマン同様、色々な方法で社会的に抹殺する」と語るが、京都の現代版仕事人が悪をどう制裁するのかは見てのお楽しみ。その制裁場面に挿入されるのが、勇次の仕事場面。辰野プロデューサーによれば「現代では悪を殺せないが、意識の中では殺しているという意味付け」だそう。ドラマでは悪を捕らえた小暮の顔が勇次に変わり、必殺の世界に入っていくという展開になる。土曜ワイド劇場「京都マル秘仕事人」5月19日夜9時より朝日放送にて放映!

許せぬ悪を吊るして
スッキリ!
中条さよしの
三味線屋勇次復活!



講習を受ける「ワーゲル」一同。木下扮する珍講師の指導に四苦八苦



「ワールドコレクション」は毎日放送にて月～金の深夜4時前後にて放送中

TKOの二人。特技は木本（左）がしりぞかぶり、木下（右）がトカチエフたとか。関西テレビ「爆笑! BOOING」でV5を成し遂げた実力派



演出中の窪岡泰樹ディレクター。スタジオにワタリレクターの刃の「く」鋭い指摘が飛び交う



ただ今人気急上昇中。向かって右が中川巧、同じく左がチョップリン・西野。松竹若手のサテライトライブなどに出演中

深夜の人気番組 「ワールドコレクション」 略して「ワーコレ」を知ってるか?

「ワールドコレクション」、通称「ワーコレ」は、毎日放送が月曜から金曜に放送する通販情報番組。通常通販番組と言えは外国人がやたらにこやかにセールのトークを繰り返しているだけ、言葉も吹替え版に「ホンマにそうなの?」と一抹の疑念がよき加えて工夫された構成で差別化に成功し、放送時間帯が深夜4時前後にもかかわらず、21.3%という高視聴率を記録する人気番組。その人気の秘訣は何と言っても商品の紹介に止まらないバラエティな企画。

その「ワーコレ」が人気お笑いコンビ・TKOをメインに4月よりグレードアップ。何を隠そう小生が構成を担当し、鍵岡ディレクターが靈魂の加筆。そしてTKOが台本に挑み、自由な発想で演じている。構成はスタジオに集められた女性に、これからの理想的な女性像を目指してTKOが指導するというもの。毎回TKO木下が講師として登場し、奇天烈な指導を女性陣に施す。例えば「マア、だ」と講師は「美姿過男」(うつくしきさび)。その他、商品がハンディ掃除機「サットリナ」だとか「忍者サットリ君」、髪をカールするカールンだと「カールン真紀」等々、奇抜な衣装で笑わせてくれる。また見逃せないのが番組のホストを務める中川巧とチョップリン・西野の、ただ今人気急上昇中の若手二人。眠く起きてもらえない読者は、録画をしても見逃すなかれ!